

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

107号

2022年8月



- * 入会は随時受け付けています。
- * あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

防災アプリを活用しよう!

7月の定例会では横浜市作成の防災アプリ「横浜市避難ナビ」の説明とインストールの練習がありました。最近の異常気象を見れば迅速に情報を得る事はとても大切です。また大きな地震の際には私たちの救援活動を素早く立ち上げるためにも確認が求められます。

私たちの地域情報を詳しく知るためにはすでに紹介した「港北区防災情報アプリ」と「横浜市避難ナビ」の行政作成の物は必須のアプリと言えるでしょう。気象庁の「ききくる天気レーダー」で雨、雲、雷、風、竜巻の気象情報を得ることができます。

「ウェザーニュース」では天気予報のほかに地震、台風、雨雲、津波の情報が上がってきます。「NHKニュース・防災」では天気予報のほか全国の災害情報やNHKニュースを見ることができます。

それぞれ特徴がありますから、まずはのぞいてみて必要なアプリをインストールすることをおすすめします。しかしインストールしても利用しなければ、備蓄品を買って安心してしまうのと同じ失敗をしてしまうことになります。異常事態が各地で起きた際はまず各アプリを覗いて見て情報を確認する習慣をつけたいものです。

また「港北区防災情報アプリ」では区内に災害情報が発せられた場合にはプッシュ通信で確認できる仕組みですからすぐ見て確認しましょう。(宇田川)



- ***「横浜市避難ナビ」について***
- ①Android版では防災ARは現在開発中で、今はまだ利用できません。
- ②横浜市避難ナビはスマホとタブレットでのみ利用でき、PCには対応していません。
- ③位置情報やカメラのアクセス権限は、あくまでもアプリを利用する上で権限の認証を求めるものであり、個人情報の収集はしていません。

防災コラム 「災害救助法」

基準以上の被害が出た災害直後の応急的な救助活動を規定した法律。市区町村が申請し都道府県が適応を決め、自衛隊や日本赤十字社などに対し救助活動を要請し、調整費用の負担を行うものです。

避難所運営や仮設住宅の供与、給食や給水の実施、被服・寝具などの生活必需品の支給または貸与など、災害によって生じた日常生活の緊急対応が、国と自治体の財政的支援のもとで行われることが定められています。

例えば避難所設置については1人330円以内の支出が認められる、炊き出しスタッフの雇い上げが可能、日常生活に必要な給与又は貸与を1人世帯で最高月18,800円冬31,200円、4人世帯だと月42,800円冬65,700円を限度に支給されるなど様々な対応ができます。また食事の費用には1人1日1,160円以内の金額が規定されており、物流さえ確保できていれば食と住は何とかしてもらえはります。しかし実際には必要なもの、特に食事がなかなか届かない現実があります。(宇田川)

Facebookをのぞこう！

年度末の振り返りで多かったのがFacebook(以下「FB」)をほとんど見ないと答えた会員が多いのがわかりました。FBを使っていない方やあまり見ない方もいるかもしれません。ニュースは紙ですので目にしやすいものですが、HPやFBはパソコンなどでそこまで見に行かなければならず、一手間かかります。しかしFBにはニュースやHPとは違う大きなメリットがあります。それは速報性に優れていること、そして他人の投稿をシェアできることです。

速報性を生かしているのが災害ボランティアを開設した時などです。毎日毎日の活動状況を載せるのには大変便利で、多くの災害ボラセンで活用されています。シェアできる利点は全国の災害ボランティアの活動を簡単に共有できることです。今までにも各地の多くの情報をアップしています。

ぜひのぞいてください。災害ボランティアとして役に立つ情報が載っています。

(宇田川)

港北区災害ボランティア連絡会のFacebookはここからアクセスできます
<https://www.facebook.com/港北区災害ボランティア連絡会-704273603061709>

QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です



スマホからはこのQRコードが便利です



日弁連災害復興支援委員会委員長 津久井進さんの投稿をシェアしたページ

インフラに「絶対安全は無い」事に気付きましょう

ここ数日の猛暑で、電力需給が逼迫して、「計画停電」や「ブラックアウト」がニュースを賑わすようになりました。また、大手携帯電話キャリアが、障害で1日以上止まって、多くのユーザーが迷惑しているというニュースも流れています。

振り返れば、東日本大震災の時、電力需給が逼迫して「計画停電」が実施され、駅前の病院が「計画停電」エリアとなって、受付を済ませた患者さんに、診察前に帰っていただいたりという事がありました。携帯電話基地局が被害を受けて、長期間通信不能という事態もありました。「震災時対応給油所」に長期間ガソリンや軽油が届かず、動かなくなった自動車が多数ということもありました。

共通して言える事は、「インフラには絶対安全は無い」という事です。大手携帯電話キャリアは、ここ数年で、原因は様々ながら、大規模障害で止まっています。地震の時にしか無かった「計画停電」が、酷暑という事で検討されています。ガソリンや軽油も、「庶民の足代」と言うには厳しい価格になっています。つまり「絶対安全は無い」のです。

ではどうするか？携帯電話ならば複数キャリアを契約する、アマチュア無線も開局する、EVを導入して家の電源のバックアップにする、ガソリンが高くてもこまめに給油して満タンにするなど、「先を見て行動する」事が重要です。確かに、この方法ではお金はかかります。でも「無いよりはマシ」ではないでしょうか。

私事ですが、拙宅はマンションなので、EVは持てませんが、「複数キャリアの携帯とアマチュア無線局」「車とバイクを所有して共にガソリン満タン」を実践しています。

(岩撫)



イラストは、イラストAC(<https://www.design-ac.net/>)の使用許諾を得ていますが、m無断転載はお断りいたします。



ペットと「災害」

発災！あなたのペットは大丈夫？



我が家には、ペットが七匹います。もう10年近く飼っている、アンデスの歌うねずみ「デグー」が五匹。昨年10月に家族になった、保護猫が二匹です。デグーは手のひらサイズの、人懐っこい齧歯類で、ゲージでの飼育で、ゲージも、1週間～2週間に一回の小屋掃除だけで、餌も水も、まとめやりが出来ます。餌もチモシー(牧草)やチモシーを固めてペレットなので、結構「放置」しても大丈夫で、災害時でも家屋が「全壊」していない限りは、そのままでも大丈夫だと思っています。

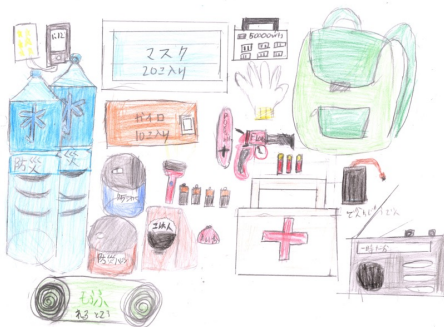
問題は猫達です。先日、所用があり家族全員で西宮の実家に3日ばかり行くことになったのですが、猫達をどうするかと考えることになりました。ペットホテルも考えたのですが、比較的人見知りがあり臆病なので「それめかわいそう」ということになりました。西宮で車が必要なので、通常なら家族5人全員で車移動(全員が運転できるので)なのですが、さすがに9時間近い車移動は、猫達にはよくないと考えました。結果、車組と新幹線組に別れることになり、猫達は新幹線移動になりました。新幹線移動も、相当ストレスではあったようですが。

日常のほんの短期間の小旅行でもこのような「悩み」が出てきます。長期の避難所生活となると、どうなるのかやはり心配になります。基本は室内飼いですが、震災で家屋の一部に損壊があると、そこから逃げてしまう危険もあります。発災時に窓が壊れたりすれば、間違いなく驚いて飛び出してしまいうでしょう。「一緒にゲージに入れて避難すれば大丈夫」「室内飼いだから大丈夫」と考えていませんか？その「自信」に根拠はありますか？

我が家の猫達には、万一の「逃走」に備えて、先日、マイクロチップを入れました。大切な「家族」。発災時にも十分なケアができるよう、考えておきたいと思います

(中島)

イラストから感じた防災・減災 (第四回)



「防災・減災イラストコンテスト」応募作から感じる防災・減災の四回目です。

今回の応募作には、日頃からの備えとしての「防災グッズ」のイラストも多くありました。左のイラスト2点は、篠原小学校の4年生が書いてくれたものです。小学生視点でも、実に多くのものを備えておかないといけない、と考えることがわかります。特徴的に感じたのは、どちらにも「First Aidキット」つまり救急セットが含まれていることです。基本的に避難所などの救護所では、投薬などは行いません。日常的に服用している薬だけでなく、常備薬も持参しないと「胃腸薬」も避難所などの救護所では、用意しない・渡さないのが基本になっています。

いざという時に、必要なものをすぐに持ち出せますか？毎日の「収納」も見直しておきましょう。

(中島)



定例会はお休みですが

「耐震」の棚を生かそうと整理しました

災ボラニュース103号でお知らせしたとおり、3月末に港北区福祉保健活動拠点・団体交流室に設置させていただいている棚を、耐震力の高い棚に取り替えました。しかし、棚は取り替えましたが、収納物はそのまま移したので、「棚は倒れなくても、地震があれば、中のものは落ちてくるかも」状態でした。また、文房具などがいろいろなところに入っていて、どこに何があるのか、簡単にわからない状況になっていました。



まずは、棚から全ての収納物を下ろして、ケースから中身を出しました。出したものを種類別に机の上に並べます。



右の写真は、全てを並べ終えたところです。団体交流室Iの机いっぱいになりました。



これまでは、ボランティアセンターの開設時のチーム（「受付班」「情報班」「本部」などなど）ごとや、「シミュレーション訓練用」などで分類して保管していたことや、連絡会立ち上げ時に購入した消耗品が活用されておらず、文房具などは同じものが沢山、保管されていることがわかりました。ボールペンやフェルトペン、メモ用紙・ポストイット・ノート・クリップ・シャープペンシル&芯などなど。「しばらく文房具を購入する必要はないですね」と話すことになりました。しかし、ボールペンやフェルトペン・ホワイトボードマーカーなどは、まだ使用できるのか、まだまだ確認が必要です。しかし、棚は右の写真のように綺麗になりました。最後は、宇田川会長の「耐震補強」で棚の上からの落下防止もできました。

(中島)



【編集後記】

- また携帯電話の大規模障害が起きるとビクビクしています。(岩撫)
- 今年は雷が多いのでしょうか。鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的安全な空間と気象庁のホームページに記されています。雷鳴が聞こえたら、できる限り早く安全な場所に避難することが大切です。(鴨下)
- 横浜市のサイトに「災害時のペット対策について」というページがあります。情報豊富ですので、検索してみてください。(室伏)
- ゲリラ豪雨が毎日のように発生しています。8月になるとそれに加えて台風が来ます。皆さん自宅廻りを点検しましょう。(付岡)
- 「港北区防災情報アプリ」は、インターネットが利用できない環境でも地図情報など利用可能な機能があります。インストールして、お試しください。(中島)